

2025年 6月 浜松聖書集会のご案内

(時間: 午前10時 ~ 正午)

○ 6月 1日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会: 溝口 春江

聖書講話: ミカ書 7章11~20節

「ミカ書の真実と限界—ミカ書の学びを終えるにあたって—」

水戸 潔

○ 6月 8日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会: 永井 徹

聖書講話: イザヤ書 58章

「城壁の破れを直す者」

小田 弘平

○ 6月22日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会: 生江 扶左子

聖書講義: ヨハネによる福音書 5章1~18節

「ベテスダの池のほとりで」

武井 めぐみ

○ 6月29日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会: 岩田 堯

聖書講義: ヨハネの黙示録 21章1節~22章5節

「聖なる都 新しいエルサレム」

武井 陽一

人はみな罪人であり頑固である マルコ福音書4章1~20節 溝口 正

イエスが「種まきのたとえ」を語り終えると、群衆の中のある者は、茨(いばら)とは何だろうか、よい地とはどんな土地だろうかなどと思いをめぐらしながら、また、ある者は「何だ、たとえ話か」と失望しながら丘を去って行った。十二弟子と、イエスの話に心を引きつけられた少数の人々が、イエスを囲み丘は静かになった。彼らはイエスに語られたたとえについて、その意味を尋ねた。…

4章14~20節は、イエスが無理解な頑迷な弟子たちに「種まきのたとえ」を淳淳と諭すように説明された形をとって書かれているが、学者の研究によると初代教会の信徒たちが、彼らの理解力に応じて聖霊に導かれつつ、たとえを解釈したものと言われる。一読すれば誰にも分かることだが、その解釈の一つ一つに信仰的真理が含まれているのは聖霊の導きのおかげである。従って「イエスは言われた」という文字の形をとって説明が展開されているが、そこに聖霊の導きがある限り、イエスの名を用いても必ずしも不当であるとは言えないであろう。

しかし私が弟子たちの解釈に限界を感じるのは、道端、石地、茨、よい地が、それぞれ人間の心の態度と結びつけられ、自分の努力でよい地になることができるのかのように私には受け取れてしまう。しかしそのような力は人間の中にはない。すべての人は罪人であり頑固である。この頑固な心、誘惑に弱い心を神が打ち砕いて悔い改めに導いてくださるのでなければ、到底神の御言葉を受け入れることはできないであろう。

私は自分を省みて道端、石地、茨のすべてに当てはまる人間であった。どこからみても「よい地」は全くなかった。しかるに57年前の、あの神の審判(敗戦)によって皇国史観に凝り固まっていた石地(心)が粉微塵に打ち砕かれ生きる希望を失った。そこへイエスさまが来臨されて「子よ、心安かれ、汝の罪赦されたり」と告げてくださった。その時以来、私はキリストを受け入れる者とされ神の民の一人に加えられた。思えば私たち日本人は、生れつき天の秘密を知らぬ**外の人**である。頑迷で罪深い人間である。そのかたくなな日本人の心を神がひとりひとり時を選んで打ち砕き、悔改めに導いてイエスを救主と仰ぐキリスト者としてくださるのである。これは人間業でできることではない。神の奇跡である。

その奇跡に与った人々よ、今こそ十字架、復活の恵みと喜び感謝とを「**外の人々**」に証言しようではないか。ここにのみ救いがあり、天の国への道がある……と。 (『復活』第438号 2003年7月)